

2026年度大学院修士課程一般入学試験（第Ⅰ期）問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語学・日本語教育に関する問題

問題1と問題2の両方に答えなさい。

【問題1】 次のA群から1問、B群から1問をそれぞれ選んで、解答しなさい。

< A 群 >

1. 現代日本語において動詞と名詞との間に見られるコロケーションの事例について具体例を挙げて説明しなさい。
2. 現代日本語における依頼表現の種類を挙げ、それぞれの特徴について用例を用いて説明しなさい。

< B 群 >

3. 日本語の敬語にはどのようなものがあるか説明し、それらを日本語教育で指導する場合の留意点や指導の方法について述べなさい。
4. 日本語教育における評価方法（テスト）について説明し、効果的なテストの実施について考察しなさい。

【問題2】 次のA群から2つ、B群から2つの用語をそれぞれ選んで、解説しなさい。

< A 群 >

1. ヘボン式ローマ字
2. 接続詞
3. 新情報と旧情報
4. 人称制限
5. 野田尚史

< B 群 >

6. モジュール型教材
7. ロール・プレイ
8. コミュニケーション・ストラテジー
9. JSL
10. カラン (C. A. Curran)

出題意図：

Intent of Questions：

【問題1】

<A群>

出題意図：日本語教師として求められる基礎的な文法知識を有しているかを確認する。

採点のポイント：1. 現代日本語の文法用語の定義や説明、2. 現代日本語の文型や文法項目に対する構造的な理解と機能的な展開、の2点について適切に説明されていること。

〈B 群〉

出題意図：日本語や日本語教育に関する基礎的な知識を有しているか確認する。

採点のポイント：1. 日本語と日本語教育に関する用語の定義や説明、2. 日本語指導における留意点や効果的な方法、の 2 点について適切に説明されていること。

解答または解答例：

Answer Keys or Examples：

【問題 2】

〈A 群〉

1. ヘボン式ローマ字 日本語のローマ字表記には訓令式とヘボン式があり、うちヘボン式はサ行、ザ行、タ行、ハ行における子音の母音との組み合わせによる音価の異なりを区別して表記するため、英語表記に近い形を採用している。例えば、土屋、藤田は訓令式ではそれぞれ Tutiya, Huzita と表記するが、ヘボン式では Tsuchiya, Fujita と表記する。
2. 接続詞 文頭に用いて、前文との論理関係を示す語（そして、しかし、したがって、など）と語と語のあいだで二語間の論理関係を示す語（または、かつ、ならびに、など）を総称して接続詞と呼ぶ。
3. 新情報と旧情報 ハとガの違いを表す 1 組の文法用語。旧情報とは情報構造上の前提となる既出の情報を指し、提題助詞ハで表す。新情報は情報構造上の焦点となる新出の情報を指し、格助詞ガで表す。
4. 人称制限 日本語では主に文末で使用されるモダリティ形式が当該文の主語名詞句の人称を制限する機能を持つことを指して人称制限という。例えば、動詞命令形は主語を第 2 人称に制限する。仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』などに詳しい研究がある。
5. 野田尚史 日本語学者。ハとガに関する著書など多数。近年では野田尚史（2012）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』を編むなど、現代日本語文法を日本語教育の現場で有効に活用できる文法とするための研究を重点的に行っている。

〈B 群〉

6. 各課の間に関連がなく、それぞれ独立して使用できる教材のこと。各課を自由に組み合わせて学習することができるため、学習者の状況や学習目標、学習期間などの多様なニーズに対応できる。
7. 会話活動の一つで、複数の参加者に、それぞれ異なる役割や状況を担わせるロール・カードを配り、それを基に会話練習を展開する。擬似的な会話だが、実践的なコミュニケーション能力を育成するのに適した活動とされる。
8. コミュニケーションの際に問題が起きた時に、それを解決するために使われる様々な方法・方略のこと。例えば、他の言葉で言い換える（言い換え）、相手に尋ねる（援助要請）、ジェスチャーを使う（身振り）などがある。
9. 第二言語としての日本語のこと。その言語が使われている国で学ぶ場合には「第二言語」、使われている国以外で学ぶ場合は「外国語」と対比して用いられ、JSL は日本で日本語を学ぶ場合などである。
10. 教授法の CLL、CL を提唱した心理学者。教師はカウンセラー、学習者はクライアントであると見なし、クラスはコミュニティと考える。会話体験（参加者が自由に会話し録音）、そして振り返り（誤用訂正や活動についての話し合い）を行なう教授法を提唱した。

